

新連載

マイナ保険証の「失態」を追う

～このまま見過すことはできません～

経済ジャーナリスト
荻原 博子

第1回 「マイナ保険証」の利用率が、低迷しています



profile

荻原 博子(おぎわら・ひろこ) / 経済ジャーナリスト。家計に根ざした視点で経済を語る。バブル崩壊直後からデフレの長期化を予想し、現金に徹した資産防衛、家計運営を提唱し続けている。新聞・経済誌などに連載。新聞、雑誌等の連載やテレビのコメンテーターとしても活躍中。近書に「マイナ保険証の罠」(文春新書)、「マイナンバーカードの大問題」(宝島社新書)など。

今号から経済ジャーナリスト・荻原博子さんによる連載「マイナ保険証の失態」を追う。このまま見過すことはできません。がスタート。運用開始以降、トラブルが相次ぐ「マイナ保険証」をテーマに、経済分野の専門家の視点から「マイナンバー」問題の根幹にあるものや、その行く末について執筆した。

昨年4月の利用率6・30%が、調査のたびに下がって12月には4・29%と8カ月連続の低下。さすがの政府も慌てて、医療機関に「マイナ保険証」の利用を促進させるためのアンケートを行いました。実はこのアンケートが、国からの「嫌がらせ」とも受けとれることから問題になっています。

これは「マイナ保険証利用促進状況に係るアンケートのお願い」というもの。「マイナ保険証」を普及させるために、どんな取り組みをしているのかを各医療機関に聞いています。

何らかの取り組みをしているところは、そのままアンケートに答えて次に進むことができますが、問題は、何もしていないところ、もしくは面倒なのでなるべくマイナ保険証を使ってほしくない行動を取っているようなところは、このアンケートに答えられないということです。

普通のアンケートなら、「答えなし」という選択ができるようになっていきます。しかし、このアンケートの画面に

支払基金から医療機関に宛てたアンケートの中身(保団連ホームページより)

【マイナ保険証利用促進状況に係るアンケートのお願い】(複数選択可)マイナンバーカードの保険証利用の促進のための取組で実施しているものを、以下の中から全てお選びください。

- 受付窓口での声かけを「保険証、見せてください」から「マイナンバーカードお持ちですか」などに切换え
- マイナ保険証のチラシ・ポスターの配布・掲示
- ホームページの外来案内や院内の掲示等に「マイナンバーカード」の持参について記載
- ホームページの外来・入院案内にマイナンバーカードを持参すれば限度額認定証が不要となることを記載
- 上記の取組は行っていない

送信して閉じる

は、答えない人が画面を閉じるマークや画面をスキップする機能がない。しかも、支払基金にレセプトを送る時にこのアンケートが出てくるので、答えないと、レセプト提出画面にたどり着けないのです。

不便さは改善せぬまま、利用率向上で金をばらまく

このアンケートは、各医療機関の「マイナ保険証」への取り組みを調べるといっても、これによって間接的に医療機関から患者に「マイナ保険証」の利用を呼びかけさせたい意図があります。「マイナ保険証を積極的に使うよう呼びかけない医療機関に対して、レセプトを盾にとった脅しをかけている」と言う医師もいます。

その一方で、利用率を上げた医療機関に対しては、支援金を支給したり、診療報酬の加算も検討する。つまり、「マイナ保険証」を普及させるための、あからさまな「アメとムチ政策」です。こんなあからさまな方法を取らなくても、「マイナ保険証」が患者にも医療機関にも便利で安心できるものだったら、自然に利用率は右肩上がりになるはず。

「マイナ保険証」

「い」にチェックされたところは、後から医療機関が可能な限り調べなくてはならないのです。それが大変なので、最初から「マイナ保険証」など使わないでほしいと思っている医療機関が多いでしょう。

政府が税金を使って本当にやらなくてはいけないのは、「マイナ保険証」の利用率向上のために医療機関に対して「アメとムチ」を振るうことではなく、「これまでの保険証よりもずっと便利だ」とみんなが言うくらいに使い勝手を改善すること。また、いまだに健康保険証の情報が、住民基本台帳と一致しないケースが87万件もある(1月28日、NHK報道)というも論外です。

ちなみに、官庁での利用率は、管轄する総務省が6・26%、厚生労働省が4・88%、内閣府や農林水産省など4省庁が5%台、文部科学省や法務省4%台、外務省3・77%、防衛省2・50%という低さ(2月29日、第175回社会保険審議会医療保険部会)。自分たちが使わないものを、一般の病院や患者に使わせるのは筋違い。みんなが使いたいと思う便利なものではないから、いっそ廃止したほうが、税金の無駄遣いにならないで済むのではないだろうか。

全国共済組合のマイナ保険証利用状況 2023年11月利用実績

	マイナ利用率
内閣共済組合	5.12%
総務省共済組合	6.26%
法務省共済組合	4.48%
外務省共済組合	3.77%
財務省共済組合	5.57%
文部科学省共済組合	4.71%
厚生労働省(第一)共済組合	5.98%
厚生労働省第二共済組合	3.96%
農林水産省共済組合	5.45%
経済産業省共済組合	5.15%
国土交通省共済組合	4.39%
防衛省共済組合	2.50%
その他(会計検査院、衆議院等)	4.48%
国共済全体	4.36%

第175回社会保険審議会医療保険部会(2024年2月29日) 資料より協会作成

来年の桜もキミと見たいんだ

健康保険証

2024年12月2日、それはキミ(健康保険証)との別れの日。でも、まだ諦めてなんかいないよ。

キミの代わりになるはずのマイナ保険証。使っている人はほんのわずかだ。国民の健康を支えるために、キミの存在は欠かせない。

2023年に「やっぱりキミが必要だ」って気持ちを訴えた。同じ思いを持った全国の人たちから12万筆もの署名が集まった。もう一度、その声を届けようじゃないか。

来年の桜もみんなと一緒に見られるように。さあ、健康保険証の廃止を食い止めよう。

署名用紙 注文フォーム

現行の健康保険証を残してください

「請願署名」にご協力をお願いします

東京歯科保険医協会

昨年全国から6千600筆超 健康保険証存続へ 引き続き署名にご協力を

協会では現在、現行の健康保険証の存続を求めた請願署名に取り組んでいる。これまでに、6千600筆を超える署名が集まり、国会へと提出した。

提出する国会の会期が異なるため、昨年本署名に協力していただいた場合も再度、署名が可能。

協会では、新ポスター「来年の桜もキミと見たいんだ」を作成し、現在開会中の通常国会提出に向けて、改めて署名に取り組んでいる。患者も、医療現場も使い慣れた健康保険証をお読みいただきたい。

を、2025年の春も存続させるための署名にご協力ください。

なお、健康保険証廃止の問題は経済ジャーナリスト・荻原博子氏の連載や、11面で詳報しているのでぜひお読みいただきたい。

豪華景品が当たるクイズハガキも!

<p>歯科医師のための</p> <p>医師賠償責任保険</p> <p>協賛会社 三井住友海上</p> <p>万が一の医療上のトラブルに備えて</p>	<p>歯科診療所におすすめ</p> <p>事業活動総合保険</p> <p>ビジネスキーパー</p> <p>協賛会社 三井住友海上</p> <p>大切な医療機械等を破損リスクから守る</p>	<p>歯科医師のための</p> <p>第2休業保障</p> <p>所得補償保険</p> <p>協賛会社 三井住友海上</p> <p>万が一の休業休診に備えて収入を補償します</p>
---	--	--

株式会社 アサカワ 保険事務所

TEL 03(3490)1751

FAX 03(3490)1780

E-mail: info@asakawahoken.co.jp

http://www.dairitenhp.com/asakawahoken/

〒141-0031 品川区西五反田 1-28-3